

普及項目	養殖・流通
漁業種類等	養殖
対象魚類	マガキ
対象海域	八代海

## 令和元年度（2019年度）マガキ養殖技術開発試験及び指導

県南広域本部水産課・吉川 真季

### 【背景・目的】

八代海では、アサリ漁業の不漁やノリ養殖の不振、漁船漁業における水揚量の減少等により漁業者の経営は厳しい状況にある。このような中、新たな収入源としてマガキの養殖が開始されたが、養殖に使用する種苗は県外産に頼っている。そこで、種苗調達コストの軽減や安定的な種苗確保を目的とした地元産種苗の採苗技術の開発のため、鏡町漁協及び同マガキ生産部会（以下、漁協等）の適正な試験実施とデータの収集を目的とした。

### 【普及の内容・特徴】

(1) マガキ天然採苗技術開発試験：漁協等は、採苗基の設置場所の違いにより稚貝の量や質に差が生じるかを試験した。今回試験で用いた基質は、シングルシード種苗を作出するプラスチック製基質2種を用い、令和元年（2019年）6月5日に鏡町地先2カ所（鏡港、大鞆港）にこれらを垂下、8月に基質の追加を行った。10月15日まで採苗し試験を終了した。

(2) 養殖技術開発試験：漁協等は、10月に得られた種苗を抑制棚及びイカダでバスケット及びあんどんかごに入れ養殖試験を行った。12月～翌年2月に月1回のサンプリングを行い、殻高、殻長、殻幅、重量を計測した。

水産課は、採苗器質の設置場所等の試験内容に係る助言のほか、養殖試験の現地指導、採取した種苗等の計測に関する助言等を行った。

### 【成果・活用】

#### (1) マガキ天然採苗技術開発試験

採苗時のふじつぼ等の付着を最小限とするため、昨年度の試験結果から6月上旬に基質を設置したが、放卵ピークを逃してしまったため、8月に基質の追加を行い種苗の確保を行った。約5万個の種苗を採捕したが、同じ大鞆港でも着底時期又は成長に差があることが示唆された。また、8月に基質を追加しても種苗は得られるが、サイズが小さく、短期養殖の種苗としては不適と考えられた（図1）。

#### (2) 養殖技術開発試験

10月から12月まで抑制棚で養成しその後抑制棚及びイカダで養殖を行った。双方とも堅調に成長したが2月には抑制棚で成長が鈍っている。これは当該年度の餌環境があまり良くなかったことに起因すると考えられる。また、昨年度の試験結果から10月からイカダで養成したものと比較し成長は劣った（図2）。以上から4月に出荷サイズに成長させるには、早期の採苗とイカダ養成を開始する必要があると考えられた。

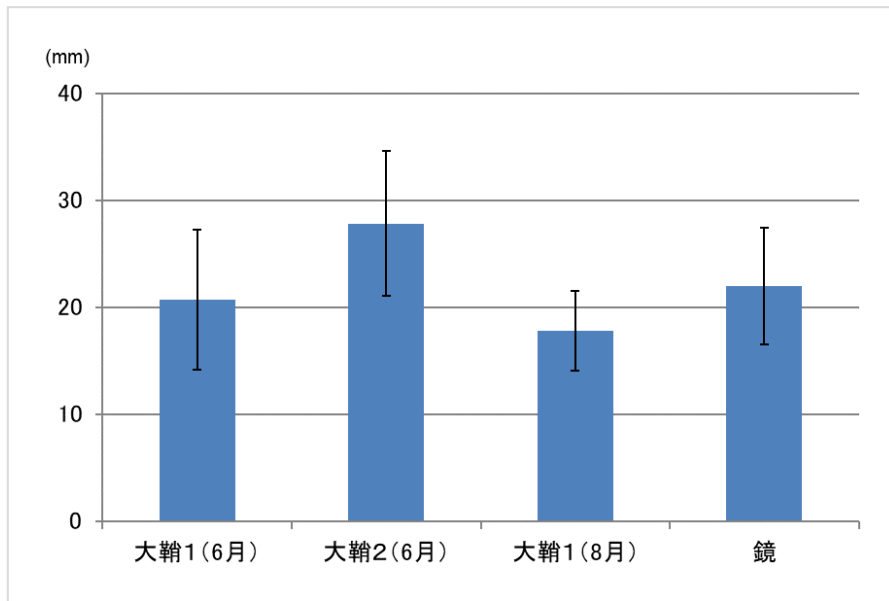


図1 採苗時期及び場所による種苗の平均殻高

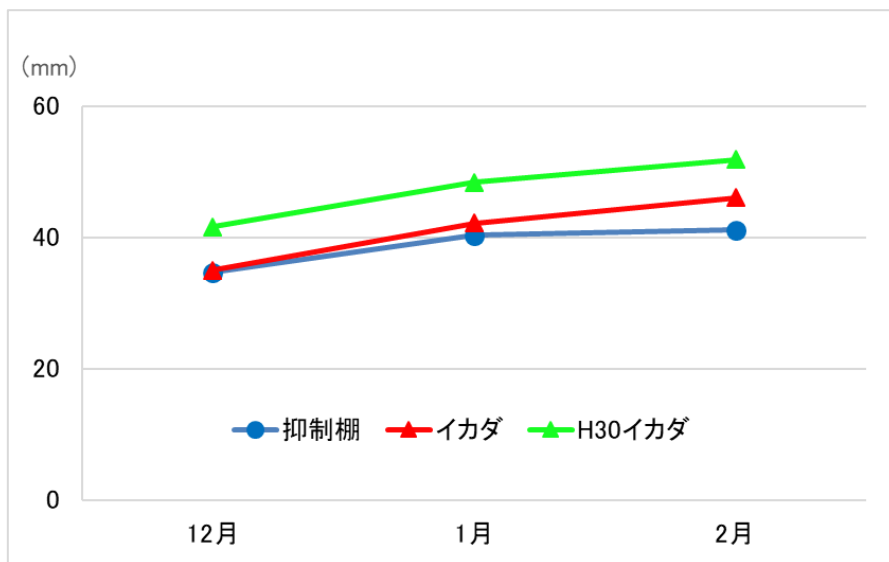


図2 天然採苗種苗の養殖試験における平均殻高の推移

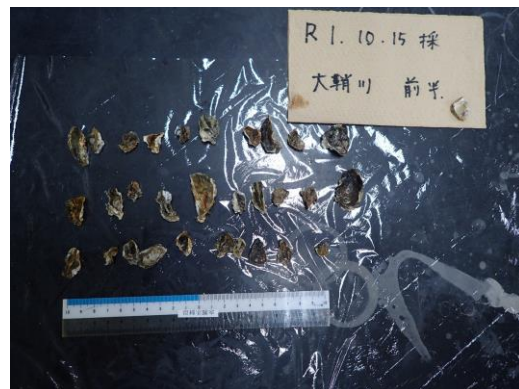


図3 10月15日採苗状況及びサンプリングした種苗